

福祉灯油 町長の評価は

町長

生活支援につながった



圓岡 伸夫 議員

【圓岡】内閣府の資料によると、地域消費喚起・生活支援型交付金を活用した低所得者向け灯油などの購入助成を、県内では8自治体を実施した。

交付金の充当額で比較をすると、日吉津村120万円、南部町377万円、伯耆町では860万円だ。

本町は40万円だが、実施した他の自治体に比べ、対象とした範囲が狭かったのではないかと。

町長の評価は。

【町長】この事業は国の経済対策として地域の実情に配慮しつつ、地域の消費喚起など景気の脆弱な部分に、スピード感を持って対応を行った。

生活保護世帯に5000円のプレミアム商品券を配った。

目的である的を絞っての生活支援、消費喚起につながったと思う。

【圓岡】東京の大山商店街おおやまのとれたて村では、参加する自治体とタイアップして「歴史と美味の体験ツアー」などを実施している。

県のアンテナショップなども巻き込んで、生産者と消費者を結び付けることはできないか。

生産者との交流を 考えては 事業者の 発掘も必要だ



牛とふれあう学生

【町長】すでにスイーツコーンの収穫やお茶づくり体験など、教育旅行の一環として行っている。

体験ツアーは、対応する生産者や事業者の発掘も必要である。関係者とも連携し、さらなる商品づくりに協力したい。

取り壊すべき理由は

代表監査委員

多額の修繕費がかかる



築60年を超えた高麗体育館

【圓岡】平成26年度の決算審査意見書には、耐用年数を経過した体育館など余剰と認められる資産の計画的閉鎖として、取り壊しに向かうべきとあるが、理由は何か。

【代表監査委員】耐用年数を経過した施設の延命には、修繕が必要になる。限られた財源の効率的・効果的利用という重要な課題から判断すると、これら施設に多額の費用を投下することは避けるべきである。

【町長】体育館は安全第一で修繕しながら提供している。